

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウキョウリカダイガク 学校法人 東京理科大学								
フリガナ大学の名称	トウキョウリカダイガク 東京理科大学								
大学本部の位置	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地								
大学の目的	東京理科大学は、一般教養とともに、理学、薬学及び工学の原理及びその応用を教授研究し、人格高く、かつ、応用力に富む有為の人物を育成して、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	創域情報学部情報理工学科は、情報科学技術を構成するコンピューティングとデータ分析・運用に対する研究と教育を、1学部1学科に網羅的に集約することによって、情報系専門分野の発展を加速するとともに、他の先端分野と共創し、真のイノベーションを実現することを目指している。この目標のもと、理学と工学における確かな基礎力と強い倫理観に裏打ちされた実践的な教養を備え、深い情報理工学の知識と主体的な試行錯誤によって、新しい分野と新たな価値を創造することのできる先進的情報人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	創域情報学部	年	人	年次人	人			年月年次	
	情報理工学科 計	4	360 360	- -	1,440 1,440	学士 (情報学)	理学関係 工学関係	令和8年4月 第1年次	千葉県野田市山崎2641番地
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	1. 学科設置(令和8年4月)(令和7年3月認可申請、令和7年4月届出予定) 理学部第一部科学コミュニケーション学科 (80) 2. 入学定員変更(令和8年4月)(令和7年3月認可申請) 創域理工学部 数理科学科〔定員増〕 (10) 電気電子情報工学科〔定員減〕 (△20) 3. 学生募集停止(令和7年7月報告予定) 創域理工学部 情報計算科学科(廃止) (△120) 経営システム工学科(廃止) (△110) ※令和8年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	創域情報学部 情報理工学科	講義	演習	実験・実習	計	129単位			
		213科目	21科目	24科目	258科目				
新設	学部等の名称		基幹教員				助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)	
			教授	准教授	講師	助教			計
	創域情報学部 情報理工学科		16 (6)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	34 (24)	0 (0)	139 (102)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		16 (4)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	34 (22)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 17人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a~b)		16 (4)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	34 (22)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)		0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)			
計(a~d)		16 (6)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	34 (24)			

新設分	理学部第一部 科学コミュニケーション学科	7 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	163 (98)	令和7年4月届出予定 大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の教員8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	11 (11)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
	計（a～d）	7 (7)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	13 (13)			
計	23 (13)	16 (16)	7 (7)	1 (1)	47 (37)	0 (0)			— (—)
既設分	理学部第一部 数学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	180 (180)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の教員8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	1 (1)	8 (8)	20 (20)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	4 (4)	1 (1)	8 (8)	20 (20)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (7)	4 (4)	1 (1)	8 (8)	20 (20)			
	理学部第一部 物理学科	8 (8)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	18 (18)	0 (0)	188 (188)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の教員8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	18 (18)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	8 (8)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	8 (8)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	18 (18)			
	理学部第一部 化学科	6 (6)	6 (6)	2 (2)	5 (5)	19 (19)	0 (0)	208 (208)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の教員8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	6 (6)	2 (2)	5 (5)	19 (19)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	6 (6)	2 (2)	5 (5)	19 (19)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	6 (6)	6 (6)	2 (2)	5 (5)	19 (19)				

既	教養教育研究院		45 (45)	32 (32)	19 (19)	6 (6)	102 (102)	0 (0)	— (—)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 一人
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	15 (15)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	22 (22)	/	/	
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	30 (30)	28 (28)	16 (16)	6 (6)	80 (80)			
	小計（a～b）		45 (45)	32 (32)	19 (19)	6 (6)	102 (102)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		45 (45)	32 (32)	19 (19)	6 (6)	102 (102)			
設	教育支援機構教職教育センター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			0 (0)
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	/	/	
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a～b）		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
分	計		301 (301)	139 (139)	61 (61)	168 (168)	669 (669)			0 (0)
	合 計		324 (314)	155 (155)	68 (68)	169 (169)	716 (706)	0 (0)	— (—)	
職 種			専 属			そ の 他			計	
事 務 職 員			403 (403)			192 (192)			595 (595)	
技 術 職 員			40 (40)			0 (0)			40 (40)	
図 書 館 職 員			2 (2)			0 (0)			2 (2)	
そ の 他 の 職 員			60 (60)			213 (213)			273 (273)	
指 導 補 助 者			0 (0)			2 (2)			2 (2)	
計			505 (505)			407 (407)			912 (912)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		大学全体【借用地】（葛飾図書館棟敷地） ・面積 5,454.42㎡ ・期間 令和15年3月31日まで（野田運動場敷地） ・面積 1,391.00㎡ ・期間 令和13年9月10日まで	
	校 舎 敷 地	770,351.59㎡	0㎡		0㎡		770,351.59㎡			
	そ の 他	35,130.74㎡	0㎡		0㎡		35,130.74㎡			
	合 計	805,482.33㎡	0㎡		0㎡		805,482.33㎡			

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 【借用建物】 (神楽坂・富士見校舎) ・面積 7,345.60㎡ ・期間 令和18年4月30日まで (神楽坂・双葉実業ビル) ・面積 1,579.98㎡ ・期間 令和15年3月31日まで (神楽坂・12号館) ・面積 331.81㎡ ・期間 令和10年3月31日まで (神楽坂・10号館別館2) ・面積 291.85㎡ ・期間 令和13年6月30日まで					
	348,071.75㎡ (348,071.75㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	348,071.75㎡ (348,071.75㎡)						
教室・教員研究室	教室	1,043室	教員研究室	34室	教室：大学全体 研究室：創域情報学部情報理工学科 基幹教員が執務で使用する大学全体の研究室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため大学全体の数		
	創域情報学部 情報理工学科	885,589 [313,346] (885,589 [313,346])	55,658 [50,532] (55,658 [50,532])	18,430 [16,674] (18,430 [16,674])	12,695 [12,675] (12,695 [12,675])	27,741 (27,741)	11 (11)			
	計	885,589 [313,346] (885,589 [313,346])	55,658 [50,532] (55,658 [50,532])	18,430 [16,674] (18,430 [16,674])	12,695 [12,675] (12,695 [12,675])	27,741 (27,741)	11 (11)			
スポーツ施設等	スポーツ施設 11,113.96㎡		講堂 1,519.3㎡		厚生補導施設 500.08㎡		大学全体			
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	「教員1人当りの研究費等」の教員は、教授、准教授、講師、助教。 「共同研究費等」は学部等単位での算出が不能なため大学全体の額。 「図書購入費」には、電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コスト）を含む。
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	—	—	
		共同研究費等		171,160千円	171,160千円	171,160千円	171,160千円	—	—	
		図書購入費	9,089千円	9,089千円	9,089千円	9,089千円	9,089千円	—	—	
	設備購入費	4,893千円	4,893千円	4,893千円	4,893千円	4,893千円	—	—		
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	学生1人当りの納付金は令和8年度入学生に適用する学生納付金を記載。なお、卒業研究費、選択科目実験実習費等は含めない。	
創域情報学部 情報理工学科		1,820千円	1,520千円	1,520千円	1,520千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入により維持運営する。									

既設大学等の状況	大学等の名称		東京理科大学					開設年度	所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率			
		年	人	年次人	人		倍			
	理学部第一部						1.05 《1.00》			
	数学科	4	115	—	465	学士（理学）	1.11 《1.06》	昭和24年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地	令和5年度入学定員減（△5人）
	物理学科	4	115	—	465	学士（理学）	1.05 《1.00》	昭和24年度	同上	令和5年度入学定員減（△5人）
	化学科	4	115	—	465	学士（理学）	1.04 《0.98》	昭和24年度	同上	令和5年度入学定員減（△5人）
	応用数学科	4	120	—	480	学士（理学）	1.03 《0.96》	昭和36年度	同上	
	応用物理学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	昭和35年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号	令和5年度より学生募集停止（応用物理学科）
	応用化学科	4	120	—	480	学士（理学）	1.03 《1.01》	昭和34年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地	
	理学部第二部						1.16 《1.06》			
	数学科	4	120	—	480	学士（理学）	1.21 《1.07》	昭和24年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地	
	物理学科	4	120	—	480	学士（理学）	1.12 《1.02》	昭和24年度	同上	
	化学科	4	120	—	480	学士（理学）	1.15 《1.08》	昭和24年度	同上	
	薬学部						1.01 《0.97》			
	薬学科	6	100	—	600	学士（薬学）	0.98 《0.96》	平成18年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号	
	生命創薬科学科	4	100	—	400	学士（薬科学）	1.05 《0.99》	平成18年度	同上	
	工学部						1.06 《1.01》			
	建築学科	4	110	2年次 20	500	学士（工学）	1.01 《0.97》	昭和37年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号	
	工業化学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.13 《1.05》	昭和37年度	同上	
	電気工学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.03 《0.98》	昭和37年度	同上	
	情報工学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.04 《1.00》	平成28年度	同上	
	機械工学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.10 《1.05》	昭和40年度	同上	
	創域理工学部						1.06 《1.00》			
	数理科学科	4	90	—	390	学士（理学）	1.10 《1.04》	昭和42年度	千葉県野田市山崎2641番地	令和5年度入学定員減（△30人）
	先端物理学科	4	100	—	420	学士（理学）	1.09 《1.03》	昭和42年度	同上	令和5年度入学定員減（△20人）
	情報計算科学科	4	120	—	480	学士（理学）	1.07 《1.03》	昭和51年度	同上	
	生命生物科学科	4	110	—	450	学士（理学）	1.05 《0.98》	昭和51年度	同上	令和5年度入学定員減（△10人）
	建築学科	4	120	—	480	学士（工学）	1.03 《0.99》	昭和42年度	同上	
	先端化学科	4	120	—	480	学士（工学）	1.07 《1.03》	昭和42年度	同上	
	電気電子情報工学科	4	150	—	610	学士（工学）	1.09 《0.98》	昭和42年度	同上	令和5年度入学定員減（△10人）
	経営システム工学科	4	110	—	450	学士（工学）	1.00 《0.93》	昭和42年度	同上	令和5年度入学定員減（△10人）
	機械航空宇宙工学科	4	130	—	510	学士（工学）	1.09 《0.98》	昭和42年度	同上	令和5年度入学定員増（10人）
	社会基盤工学科	4	110	—	450	学士（工学）	1.06 《0.98》	昭和50年度	同上	令和5年度入学定員減（△10人）

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員 定員 年次人	収容定員	学位又は称号	収容定員 充足率	開設年度	所在地		
		年	人	人	人		倍				
既設大学等の状況	先進工学部						1.03				
	電子システム工学科	4	115	—	465	学士(工学)	《1.00》 1.11	昭和62年度	東京都葛飾区新 宿6丁目3番1号	令和5年度入学定員減(△5人)	
	マテリアル創成工学科	4	115	—	465	学士(工学)	《1.05》 1.04	昭和62年度	同上	令和5年度入学定員減(△5人)	
	生命システム工学科	4	115	—	465	学士(工学)	《0.99》 1.00	昭和62年度	同上	令和5年度入学定員減(△5人)	
	物理工学科	4	115	—	345	学士(工学)	《0.97》 0.94	令和5年度	同上		
	機能デザイン工学科	4	115	—	345	学士(工学)	1.04	令和5年度	同上		
	経営学部										
	経営学科	4	180	—	720	学士(経営学)	1.07 《1.01》 1.08	平成5年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地		
	ビジネスエコノミクス学科	4	180	—	720	学士(経営学)	《1.02》 1.07	平成28年度	同上		
	国際デザイン経営学科	4	120	—	480	学士(経営学)	《1.02》 1.05 《1.00》	令和3年度	(1年次) 北海道山越郡長万部町字富野102番地1 (2~4年次) 東京都新宿区神楽坂一丁目3番地		
	理学研究科										
	(修士課程)										
	数学専攻	2	25	—	50	修士(理学)	1.20 1.72	昭和33年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地		
	物理学専攻	2	50	—	100	修士(理学)	1.28	昭和33年度	同上		
	化学専攻	2	120	—	240	修士(理学)	1.21	平成29年度	同上		
	応用数学専攻	2	25	—	50	修士(理学)	1.42	平成21年度	同上		
	科学教育専攻	2	40	—	80	修士(学術)	0.58	平成29年度	同上		
	(博士後期課程)										
	数学専攻	3	3	—	9	博士(理学)	1.37 1.66	昭和36年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地		
	物理学専攻	3	5	—	15	博士(理学)	1.33	昭和36年度	同上		
	化学専攻	3	4	—	12	博士(理学)	1.75	平成29年度	同上		
	応用数学専攻	3	3	—	9	博士(理学)	0.88	平成21年度	同上		
	科学教育専攻	3	3	—	9	博士(理学) 又は 博士(学術)	1.11	平成29年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地		
	薬学研究科										
	(修士課程)										
	薬科学専攻	2	90	—	180	修士(薬科学)	0.85	平成22年度	東京都葛飾区新 宿6丁目3番1号		

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	(博士課程)								
	薬学専攻	4	5	—	20	博士(薬学)	1.05	平成24年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号 東京都新宿区神楽坂一丁目3番地
	(博士後期課程)								
	薬科学専攻	3	5	—	15	博士(薬科学)	4.00	平成24年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号 東京都新宿区神楽坂一丁目3番地
	工学研究科								
	(修士課程)						1.10		
	建築学専攻	2	50	—	100	修士(工学)	1.32	昭和41年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号
	工業化学専攻	2	60	—	120	修士(工学)	1.09	平成29年度	同上
	電気工学専攻	2	70	—	140	修士(工学)	1.02	昭和41年度	同上
	情報工学専攻	2	50	—	100	修士(工学)	0.84	令和2年度	同上
	機械工学専攻	2	60	—	120	修士(工学)	1.24	昭和58年度	同上
	(博士後期課程)						0.54		
	建築学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.88	昭和58年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号
	工業化学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.22	平成29年度	同上
	電気工学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.11	昭和58年度	同上
	経営工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	昭和60年度	同上
	情報工学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.77	令和2年度	同上
	機械工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.53	昭和60年度	同上
	創域理工学研究科								
	(修士課程)						1.19		
	数理科学専攻	2	20	—	40	修士(理学)	1.72	昭和47年度	千葉県野田市山崎2641番地
	先端物理学専攻	2	30	—	60	修士(理学)	1.13	昭和47年度	同上
	情報計算科学専攻	2	40	—	80	修士(理学)	1.26	昭和55年度	同上
	生命生物学専攻	2	60	—	120	修士(理学)	0.75	昭和55年度	同上
	建築学専攻	2	60	—	130	修士(工学)	1.46	昭和47年度	同上
	先端化学専攻	2	70	—	140	修士(工学)	1.02	昭和47年度	同上
	電気電子情報工学専攻	2	80	—	160	修士(工学)	1.27	昭和47年度	同上
	経営システム工学専攻	2	30	—	60	修士(工学)	1.30	昭和47年度	同上
	機械航空宇宙工学専攻	2	60	—	120	修士(工学)	1.11	昭和47年度	同上
	社会基盤工学専攻	2	30	—	60	修士(工学)	1.83	昭和54年度	同上

令和2年度より学生募集停止(経営工学専攻博士後期課程)

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	国際火災科学専攻	2	28	—	56	修士（工学）	0.62	平成30年度	千葉県野田市山崎2641番地 東京都新宿区神楽坂一丁目3番地
	(博士後期課程)						1.00		
	数理科学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0.88	昭和49年度	千葉県野田市山崎2641番地
	先端物理学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0.66	昭和49年度	同上
	情報計算科学専攻	3	4	—	12	博士（理学）	0.75	昭和57年度	同上
	生命生物科学専攻	3	4	—	12	博士（理学）	1.41	昭和57年度	同上
	建築学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	1.22	昭和49年度	同上
	先端化学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	1.11	昭和49年度	同上
	電気電子情報工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	1.11	昭和49年度	同上
	経営システム工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.33	昭和49年度	同上
	機械航空宇宙工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.44	昭和49年度	同上
	社会基盤工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	1.33	昭和56年度	同上
	国際火災科学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	1.77	平成30年度	千葉県野田市山崎2641番地 東京都新宿区神楽坂一丁目3番地
	先進工学研究科								
	(修士課程)						1.22		
	電子システム工学専攻	2	50	—	100	修士（工学）	0.95	平成3年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号
	マテリアル創成工学専攻	2	50	—	100	修士（工学）	1.33	平成3年度	同上
	生命システム工学専攻	2	50	—	100	修士（工学）	1.39	平成3年度	同上
	物理工学専攻	2	50	—	100	修士（工学）	0.90	令和5年度	同上
	機能デザイン工学専攻	2	25	—	25	修士（工学）	1.28	令和7年度	同上
	(博士後期課程)						0.49		
	電子システム工学専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.27	平成5年度	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号
	マテリアル創成工学専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.33	平成5年度	同上
	生命システム工学専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.66	平成5年度	同上
	物理工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.88	令和5年度	同上
	機能デザイン工学専攻	3	3	—	3	博士（工学）	0	令和7年度	同上

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	経営学研究科 (修士課程) 経営学専攻 (博士後期課程)	2	20	—	40	修士(経営学)	1.07	平成9年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地
	経営学専攻 (専門職学位課程) 技術経営専攻	3	5	—	15	博士(経営学)	0.40	平成30年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地
	生命科学研究所 (修士課程) 生命科学専攻 (博士後期課程)	2	80	—	160	技術経営修士 (専門職)	0.78	平成30年度	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地
	生命科学専攻 (博士後期課程)	2	15	—	30	修士(理学)	1.20	平成9年度	千葉県野田市山崎2641番地
	生命科学専攻	3	5	—	15	博士(理学)	0.66	平成11年度	千葉県野田市山崎2641番地
附属施設の概要	名称：葉草園 目的：国内外の薬用植物への理解を深めるため 所在地：千葉県野田市山崎字東亀山 2666番地 1 設置年月日：昭和40年3月20日（平成19年3月20日移設） 規模：2,500㎡								

教 育 課 程 等 の 概 要

(創域情報学部 情報理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員	
一般教養科目 (領域を超えて学ぶ科目群)	法学特殊講義	2・3・4後			2		○									1	
	心理学特殊講義	2・3・4後			2		○									1	
	教養研究	3・4前			2		○									1	
	健康スポーツA(実技)	1・2・3・4前			1				○							13	
	健康スポーツB(実技)	1・2・3・4前			1				○							13	
	健康スポーツC(実技)	1・2・3・4後			1				○							13	
	健康スポーツD(実技)	1・2・3・4後			1				○							13	
	シーズンスポーツ実習1	1・2・3・4前			1				○							8	標準外
	シーズンスポーツ実習2	1・2・3・4後			1				○							6	標準外
	スポーツ方法1(実技)	2・3・4前			1				○							13	
	スポーツ方法2(実技)	2・3・4後			1				○							13	
	身体機能測定演習	2・3・4前			2					○						1	
	健康・スポーツ科学	1・2・3・4前後			2			○								2	
	チームビルディングとスポーツ	2・3・4後			2					○						1	
	トレーニング学	2・3・4前			2			○								1	
スポーツコーチング論	2・3・4後			2			○								1		
健康管理学	2・3・4後			2			○								1		
小計(42科目)	—	—	—	0	76	0	—	—	—	—	5	2	0	0	—	62	—
基礎科目	線形代数1及び演習	1前	○	3			○				1	2					共同 ※演習
	線形代数2及び演習	1後	○	3			○				1	1	1				共同 ※演習
	解析学1及び演習	1前	○	3			○				1	2					共同 ※演習
	解析学2及び演習	1後	○	3			○				1	2					共同 ※演習
	情報数学及び演習	1前	○	3			○				1		1				共同 ※演習
	確率統計1	1前	○	2			○				1	1	1				共同
	統計的方法及び演習1	1後	○	2			○				1	2					共同
	計算機概論	1後	○	2			○						1				
	プログラミング基礎1A	1前	○	2					○		2						
	プログラミング基礎1B	1後	○	2					○			2					
情報理工学概論	1前	○	2				○			15	13	5				標準外・オムニバス・共同(一部)	
データサイエンス概論	1後	○	2				○			2	2					オムニバス	
計測実験	1前後	○	2						○	1	1					共同	
小計(13科目)	—	—	—	31	0	0	—	—	—	15	13	5	0	—	—	0	—
基礎科目	専門基礎科目																
	統計的方法及び演習2	2前	○	2			○				2	1					共同
	確率統計2	2後	○	2			○				1	2					共同
	プログラミング基礎2A	2前	○	2					○		1						
プログラミング基礎2B	2後	○	2					○		1							
小計(4科目)	—	—	—	8	0	0	—	—	—	5	3	0	0	—	—	0	—
専門科目	プロジェクト実験	3後	○	2						○	16	13	5				
	研究セミナーA	3前			2			○			16	13	5				
	研究セミナーB	3後			2			○			16	13	5				
	横断セミナー	3前			2			○			16	13	5				
	専門セミナー	3後			2			○			16	13	5				
	研究会A	1・2前後			2					○	1						標準外
	研究会B	1・2前後			2					○	1						標準外
	研究会C	3・4前後			2					○	1						標準外
	研究会D	3・4前後			2					○	1						標準外
	卒業研究1	4前	○	4						○	16	13	5				標準外
	卒業研究2	4後	○	4						○	16	13	5				標準外
ダブルラボ1	4前			2					○	2	2					標準外	
ダブルラボ2	4後			2					○	2	2					標準外	

教 育 課 程 等 の 概 要

(創域情報学部 情報理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
専門科目	数理論理学	3前			2		○						1					
	デジタル信号処理	3前			2		○					1						
	ニューラルネットワーク	3前			2		○					1						
	数値解析	3後			2		○					1						
	情報ネットワーク論及び演習2	3後			2		○						1					
	デジタル回路・論理回路	3後			2		○					1						
	オペレーティングシステム	3前			2		○					1						
	分散コンピューティング	3前			2		○					1						
	ソフトウェア工学	3後			2		○					1						
	画像情報工学	3後			2		○					1						
	自然言語処理	3後			2		○											1
	ヒューマンコンピュータインタラクション	3後			2		○											1
	ロボット工学	3後			2		○					1						
	オペレーションズ・リサーチC	3前			2		○											1
	経営工学実験A	3前			2					○	3	2	1					共同
	経営工学実験B	3後			2					○	3	2	1					共同
	生産システム工学	3前			2			○			1							
	品質管理1	3後			2			○			1							
	エネルギーリスクマネジメント	3前			2			○			1							
	リアルオプション	3前			2			○				1						
	社会調査法	3後			2			○				1						
	環境資源工学	3後			2			○					1					
	都市解析	3前			2			○				1						
	建築防災学	3後			2			○				1						
	避難安全工学	3前			2			○				1						
	データマーケティング	3前			2			○										2
	品質管理2	3後			2			○										1
	信頼性工学	3前			2			○										1
	サプライチェーンマネジメント	3前			2			○										1
	行動科学	3前			2			○				1						
	生命情報学	3前			2			○				1						
生命情報の数理	3後			2			○				1							
情報生化学・免疫学	3後			2			○					1						
生命情報データベース演習	3前			2				○		1	1						オムニバス	
数学科教育論1	3前			2			○										1	
数学科教育論2	3後			2			○										1	
情報科教育法1	3前			2			○										1	
情報科教育法2	3後			2			○										1	
情報と職業	3前			2			○										1	
小計 (105科目)		—		10	208	0	—			16	13	5	0			18	—	
教職課程科目	数学科指導法1	3前				2	○										1	
	数学科指導法2	3後				2	○										1	
	教育心理学特論	2後				2	○										1	
	特別支援教育論	1後				1	○										1	
	教育課程編成論	3前				1	○										1	
	道徳教育	2後				2	○										1	
	総合的な学習 (探究) の時間の指導法	1後				1	○										1	
	特別活動・進路指導	2前				2	○										1	
	教育工学 (ICTの活用含む)	3前				2	○										1	
	生徒指導論	2後				2	○										1	
	教育相談の理論と方法	3後				2	○										1	
	教育実習指導	3~4前後				1				○							3	標準外・共同
	教育実習1	4通				2				○							3	標準外・共同
	教育実習2	4通				2				○							3	標準外・共同

教 育 課 程 等 の 概 要

(創域情報学部 情報理工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
教職課程科目	教職実践演習(中・高)	4後				2		○							3	共同 標準外 標準外
	教育実習指導演習	3後				1		○							1	
	学校インターンシップ	3前後				1			○						1	
	教職パフォーマンス演習	3前				1		○							1	
	教育課題演習	3前				2		○							1	
小計(19科目)		—	—	0	0	31	—			0	0	0	0		8	—
合計(258科目)		—		49	403	31	—			16	13	5	0		139	—
学位又は称号		学士(情報学)		学位又は学科の分野			理学関係、工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
基礎科目の必修科目から39単位、専門科目の必修科目から10単位、選択科目から50単位を修得する。また、一般教養科目から30単位を修得し、129単位を修得する。(履修科目の登録の上限:49単位(年間)) なお、専門科目の選択科目のうち、「研究セミナーA、研究セミナーB、横断セミナー、専門セミナー」から4単位を選択必修とし、また、一般教養科目のうち、外国語を学ぶ科目群の英語系(Active English A、Active English B、Academic English A、Academic English B、College English A、College English B、Career English A、Career English B、Oshamambe English)から8単位を選択必修とする。							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業の標準時間		90分							

設置の趣旨等を記載した書類（抜粋版）

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 創域情報学部情報理工学科を設置する理由・必要性

① 創域情報学部情報理工学科の概要

東京理科大学（以下「本学」）は、明治 14（1881）年に東京物理学講習所として設立されて以来、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を建学の精神として掲げ、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」を教育研究の理念として、一貫して、「科学技術創造立国」による国の発展に貢献してきた。この精神と理念の下に、本学の情報の分野は、科学と技術を担う各学部や各学科の一部として常に存在し、必要に応じて、総合研究院における研究センターや研究部門として統合されながら、今日まで、多くの研究成果を挙げながらデジタル人材を輩出してきた。しかしながら、情報分野の進歩は想像以上に速く、生み出される革新的な技術は、現在の先端研究の延長線上ではなく、複数の研究にまたがった理論と実現の融合の上に生じることが多くなった。例えば、現在の AI 技術の成功は、単なる AI の進歩ではなく、廉価な並列プロセッサの出現や、統計分析による入力データの適切な取捨選択や変形に支えられている。すなわち、従来の技術を発展させるだけでなく、真のイノベーションを実現していくためには、情報の分野を総動員し、スピード感をもって教育研究を行える環境が不可欠である。本学は、このような見地に立って、情報分野を網羅的に備え、さらに、建学の精神の「国運発展」に寄与する社会実装をも含んだ新しい学部「創域情報学部」を設置する。

創域情報学部は、情報分野を構成する「コンピューティング」(**C**omputing、以下「C 系」)の要素と「データの分析・運用」(**D**ata integration、以下「D 系」)の要素を網羅的に用意し、基盤技術から応用技術まで、幅広い水準にまたがる一体型の教育研究を進めるために、一つの学科「情報理工学科」で構成する。情報理工学科は、令和 7 年度の入学生を最後に学生募集を停止する創域理工学部情報計算科学科と経営システム工学科の教員とその研究分野を引き継ぐとともに、多くの新たな教員を加えることによって、情報分野の網羅性を実現している。また、学科内の構成は、従来の構成を再編し、C 系の基盤を担う「コンピュータ科学」と応用を担う「知能メディア」、D 系の基盤を担う「データ科学」と応用を担う「社会システム」の 4 コースを設置する。各コースは、履修モデルを用意することによって、学生が専門性を高める際の道しるべを提供するとともに、分野の融合を進める上での基点の役割を果たす。また、他コースの履修モデルにおいて重要度の高い科目で良い成績を修めると、他コースの研究室への配属を可能にす

る仕組みを設け、在学中の興味の変化や進学・就職先の必要性によって、学習や研究の方向性を変えることができる。

② 創域情報学部情報理工学科を設置する理由・必要性

現在の情報技術は、情報化社会という言葉を引き合いに出すまでもなく、社会に不可欠なインフラを担う技術になっている。その情報技術で先行していくことは、技術立国を自称する日本の最優先課題であると考えられる。しかしながら、一部の例外を除いて、これまでの日本の情報技術が、他国に先行してイノベーションを起こしてきたとは言い難いのが実状である。そこには、短期的な成果を求め、応用を重視する風潮や、基盤分野と応用分野の乖離も一因として存在していた。今後、進歩の速い情報分野をさらに加速し、真に革新的な研究成果及び真のイノベーションを起こせる学生を輩出していくためには、基盤技術から応用技術まで、幅広い水準にまたがる一体型の研究教育が不可欠である。

また、真のイノベーションは、まず問題が存在して、その問題を解決する過程で生じるとは限らない。例えば、生成 AI は明らかに重要なイノベーションであるが、その応用先は、生成 AI の登場後に検討されたものが殆どである。すなわち、真のイノベーションを実現していくためには、文献を調査し、残されている問題を探し出し、その問題を解決するための理論や手法を提案するという、これまでの研究スタイルだけでなく、「試行錯誤」をとおして、直接、イノベーションを創出する仕組みが必要である。

これらの社会情勢に対応し、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を建学の精神とする本学は、広範な情報学を包括的に教育・研究するため、最短で準備可能な令和 8 年度に創域情報学部情報理工学科（入学定員 360 人、収容定員 1,440 人）を新たに設置することとした。

本学部学科を設置する野田キャンパス（千葉県野田市）は、同じキャンパス内に「創域理工学部」が存在し、理想的な共創相手かつ実践の場として互いに相乗効果を生む環境であると言える。特に、創域理工学部・研究科の地域貢献を支援するサステイナブルアーバンシティセンター（CSUC）の存在は、新設する創域情報学部の成果をいち早く社会に還元する意味でよい効果をもたらすことが期待される。本組織は令和 5 年度に創域理工学部・研究科に設置され、大学院横断型コースをはじめとした融合型研究の成果を発信し、地方自治体や産業界をはじめとした学外との関係を円滑に進めることで、実践的な地域貢献や社会貢献を行うこと、及びこれらの活動の結果を創域理工学部・研究科の教育・研究に還元することを目的としている。創域情報学部情報理工学科の設置後は本学部学科もサステイナブルアーバンシティセンターの活動に参画することを予定しており、地域的なニーズや課題解決に向けた今後の施策に対し一層の貢献が可能になると言え

る。近隣には、既に本学との共同研究の実績を有する国立がんセンターや慈恵医科大学があることに加え、野田市及び流山市との包括連携協定に基づき実施する市内の小中学校へのプログラミング教育支援や生涯学習支援等を踏まえても、創域情報学部の教育研究及びそれらの実践の場として、本学野田キャンパスは大いに適した環境にある。

(2) 創域情報学部情報理工学科で養成する人材像、身に付けさせる能力等の教育上の目的及び3つのポリシー

創域情報学部情報理工学科（以下「情報理工学科」）は、情報科学技術を構成するコンピューティングとデータ分析・運用に対する研究と教育を、1学部1学科に網羅的に集約することによって、情報系専門分野の発展を加速するとともに、他の先端分野と共創し、真のイノベーションを実現することを目指している。この目標のもと、理学と工学における確かな基礎力と強い倫理観に裏打ちされた実践的な教養を備え、深い情報理工学の知識と主体的な試行錯誤によって、新しい分野と新たな価値を創造することのできる先進的情報人材を育成する。

情報理工学科は、このような人材を育成することを目的として、以下の知識・能力を身に付けることを「卒業認定・学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー]」で定めている。

【卒業認定・学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー]】

実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った情報技術系人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（情報学）の学位を授与する。

- 【DP1】 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。
- 【DP2】 情報学分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識。
- 【DP3】 学部教育を通じて修得した知識と訓練された思考力をもとに、自然科学・科学技術の分野だけでなく、社会における多様な情報を論理的に分析し、問題の発見、さらにはその解決に貢献しうる能力。
- 【DP4】 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的に取り組むことのできる判断力・行動力。
- 【DP5】 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力。
- 【DP6】 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力。

このようなディプロマ・ポリシーを満たす人材を育成するために、情報理工学科で

は、次のような教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

- 【CP1】** 創域情報学部情報理工学科は理学・工学の理論と技術を基本として、自然、社会、人間の各現象に関わる「問題」をどのように分析・解析し、本質的な部分問題へ分解するかを扱う「データ科学」と各部分問題を解決する理論や技術である手法を提案する「コンピュータ科学」、そして各問題に向けて、手法を手順として組合せ、構成する「知能メディア」、各手法を要求に合わせて社会実装する「社会システム」の4分野を主体的に学ぶことで、情報学における理論及び技術に関する基礎力と応用力を十分に有した、諸問題への対処と新しい領域及び新たな価値を創造する能力を備えた人材育成を目標に学士の教育課程を編成する。
- 【CP2】** 真に実力を身に付けた学生だけを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、2年次への進級条件を設け、かつ、単に専門知識や技術だけではなく豊かな人間性を育む教育課程を実践する。
- 【CP3】** 基礎から応用までの幅広い知識を身に付けた「情報技術」に関する専門家を育成することを目的に、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」を配置する。
- 【CP4】** 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、キャリア形成力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
- 【CP5】** 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、判断力・行動力、自己管理能力、主体性を養う授業科目を効果的に配置する。
- 【CP6】** 英語教育においては、少人数クラスや習熟度を考慮したクラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
- 【CP7】** 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。
- 【CP8】** 「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探究の方法を学ぶ。さらに、3年次からは、各学生は研究室に所属し、教員の個人指導のもとに情報技術の専門をより深く学べるようにする。
- 【CP9】** 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究を配置する。

【CP10】 情報技術の分野にとらわれず、幅広く関心を持ち学修できるよう、他学部
の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図る
とともに、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

【CP11】 指定された教職に関連する科目を履修することで、教科「数学」（中学
校・高等学校）及び教科「情報」（高等学校）の教育職員免許状を取得
することができる。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入
学者を受け入れるための基本的な方針（アドミッション・ポリシー）を次のように定
めている。

【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

【AP1】 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力に加えて、情報系
専門分野の探究や他の先端分野との共創を通して新たな価値を想像しよう
とする志を備え、専門分野の学習に必要な学力を持つ人。

【AP2】 自立心旺盛で、将来広く国内外で活躍しようとする意欲を持ち、国際的な視
野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人。

【AP3】 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲の
ある人。

を多様な選抜方法により広く求める。

3 つのポリシーの各項目との相関は【資料 1】のとおりである。

（3）研究対象とする中心的な学問分野

情報理工学科では、コンピューティング分野の C 系とデータ分析・運用分野の D
系からなる情報分野を網羅的に含んでいる。

C 系の基盤を担う「コンピュータ科学コース」は、CPU 設計、オペレーティング
システム、ネットワーク、プログラミング言語といった分野から、ソフトウェア工学、
組合せ理論、グラフ理論、量子コンピュータといった、ソフトウェア開発、計算機科
学の基礎理論、発展途上の計算システムまでを含んでいる。C 系の応用を担う「知能
メディアコース」は、人工知能、大規模自然言語モデル、ロボット工学、ネットワ
ーク・セキュリティ、暗号理論、ゲーム開発学といった、現在注目されている分野や、
セキュリティ分野、ゲーム開発によって統合される計算機科学の分野を含んでいる。

D 系の基盤を担う「データ科学コース」は、確率、統計学、数理モデル、数理論理
といった数理的基盤や、医療統計、生命情報、機械学習に基づくデータマイニングな
どのデータの種類や規模によるデータの扱いに対する理論と実践を含んでいる。D 系

の応用を担う「社会システムコース」は、都市空間、ファイナンス、防災、経営システム、応用統計、医療マネジメント、環境といった、社会からの要請が多い課題への理論と実装を与える分野を含んでいる。

これらの情報系分野は、互いに影響し合う関係にあり、1分野での発展が、他の多くの分野に展開し、革新的な新領域の創出につながることを期待されるものであり、幅広い分野構成をもつ情報理工学科の大きな強みであると言える。

2. 学部・学科等の特色

情報理工学科は、情報分野を網羅的に備えた環境で、進歩の速い情報分野の発展をさらに加速するとともに、革新的技術を創出し、世界に発信していくことを目指す。同時に、情報分野の発展を加速する「専門人材」と、多くの情報分野の知識を基に他の先端分野と結びつき、革新的技術を創出する「融合人材」を育成する。

「専門人材」を目指す学生は、専門性を高めるために、コンピュータ科学、知能メディア、データ科学、社会システムの各コースが用意する履修モデルに則って学習することができ、6年一貫教育制を用いて、学部4年間から修士課程2年間までの6年間のうち、後半の3年間を研究に専念することができる。一方、「融合人材」を目指す学生は、共通の必修科目や企業が提供する寄付講座及び、他コースの履修モデルで指定する科目を自由に履修することによって、知識の幅を広げるとともに、研究会をとおして、専門人材を目指す学生や、他コースの学生と実践的な共創を行うことができる。

また、情報理工学科を設置する野田キャンパスには創域理工学部があることから、本学部での教育と並行して、創域理工学部の研究室においても学ぶことのできる「ダブルラボ」、研究会での実践的な共創によって、他の先端的な分野を広く専門的に学ぶことができる。

企業とのつながりが強いことも、情報理工学科の特徴である。研究室との共同研究に学生が参画する形式はもちろんのこと、実務家教員から指導を受けることができ、また先端企業から提供される寄附講座を履修することによって、企業がもつ課題と取り組みについて直に学ぶことができる。また、企業の小プロジェクトを、研究会として開講してもらうことによって、実践的な社会実装のあり方を学ぶことができる。このような企業との強いつながりは、学生の実践性の向上に役立つとともに、企業とのミスマッチのない人材育成によって、博士後期課程の学生に将来を見据えて安心して研究できる環境を実現し、博士後期課程に進む学生の増加にも貢献するものと考えている。

また、本学の理数教員養成の伝統を継承し、取得できる資格として、指定された教職に関連する科目を履修することで、教科「数学」（中学校・高等学校）及び教科「情報」（高等学校）の教育職員免許状を取得することができる。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部、学科の名称

本届出により設置する学部・学科の名称は、以下のとおりである。

学部名称 創域情報学部

学科名称 情報理工学科

創域情報学部及び情報理工学科の名称は、情報技術の急速な進展とその応用範囲の拡大を背景に選定したものである。設置される東京理科大学野田キャンパスには、令和5年4月に理工学部から名称変更した創域理工学部がある。「創域」には、従来の学問領域を超えて新しい領域と価値を創出するという理念が込められており、その理念を新学部においても共有し、進歩の速い情報系分野の発展を加速させ他分野との融合を促進する学部の役割を果たすため、学部名称を「創域情報学部」とした。学科名称の「情報理工学科」は、情報技術の基盤である「コンピューティング」と「データの分析・運用」を中心に据え、情報科学と工学の基盤を統合して次世代の革新的技術を創出するための専門知識とスキルを提供する学科であることを表している。この名称は、新しい分野と新たな価値を創造することのできる先進的情報人材を育成するという学科の目的を端的に表現したものである。

(2) 学位及び専攻分野の名称

授与する学位は、教育課程、教育研究分野等の専攻分野に照らして次のとおりとする。

「学士（情報学）」

(3) 学部、学科及び学位の英訳名称

①学部名称

創域情報学部：Faculty of Information Science and Technology

②学科名称

情報理工学科：Department of Information Science and Technology

③学位名称

学士（情報学）：Bachelor of Informatics

以上